

## 1 取組の目的・全体像

マチコエ農業グループでは「シン・コミュニティ農園の創設と推進」を提言しました。

シン・コミュニティ農園とは共同で農作物を育て農園を運営し、人の交流と資源の循環、余暇の充実、教育、食育などの様々な効果が期待できる地域で循環する農園です。

コミュニティ農園の話をする中で、国立天文台とICU（国際基督教大学）では増えすぎた竹に困っていること、その竹をチップにして竹チップ段ボールコンポストに利用して家庭で使えば、家庭から出る生ごみをコンポストで堆肥化でき、その堆肥を農園に利用すれば、地域の資源が循環して良いサイクルが生まれるのではないかという話が出ました。

ゴミとして燃やされるしかなかった生ゴミが畑や庭で使える堆肥になり、生ゴミが減り、焼却で生じるCO2も削減する、地域資源が循環するサイクルができます。「シン・コミュニティ農園」の実現は用地確保の問題などがあり時間がかかりそうですが、まず身近なところから出来ることとして、竹チップ段ボールコンポストを実際に使ってみて、生ゴミを堆肥化できるか、畑や庭に使えるかを検証するために竹チップ段ボールコンポストのワークショップを企画しました。



シン・コミュニティ農園イメージ図

## 2 取組のポイント

ワークショップは、以下の内容で2回実施しました。

1回目：竹チップ段ボールコンポストを考案した恵泉女学園大学の澤登早苗教授に、使い方や地域での活用例などを教えてもらい、シン・コミュニティ農園を提言したマチコエのメンバー（農業グループの伊藤リーダー）から、シン・コミュニティ農園について説明しました。また、市内でコンポスト活動をしている団体の Public soil club の方には活動紹介をしてもらい、今回のワークショップの参加者が今後参加できる場の1つとして紹介しました。

1回目：2024年1月13日 14～16時 @三鷹市市民協働センター

参加人数 30人+スタッフ7人+登壇者5人

<内容>

竹チップ段ボールコンポストの配布。シン・コミュニティ農園についての説明。

Public Soil Clubの活動紹介。

澤登先生の堆肥やコミュニティーガーデンの話。コンポストの組み立てと使い方の説明。

2回目：1回目のワークショップ参加者にコンポストを実際に1か月使ってもらった後、使って良かったこと、疑問点、困ったことなどをシェアして、コンポストについての疑問点などを解消してもらうフォローアップと、出来た堆肥をどこで使えるか参加者にアイデア出しをしてもらいました。また恵泉女学園大学の菊地牧恵先生に参加者の質問等に回答いただき、よりコンポストの使い方が理解できるよう実施しました。

2回目：2024年2月18日 14～16時 @三鷹市市民協働センター

参加人数 17人+スタッフ7人+登壇者5人

<内容>

コンポストを実際に使ってみた体験シェアと菊地先生によるQ&A。

コンポストからできた堆肥の今後の使いみちを考えるグループディスカッション。



イベント周知用チラシ



コンポストセット



ワークショップの様子

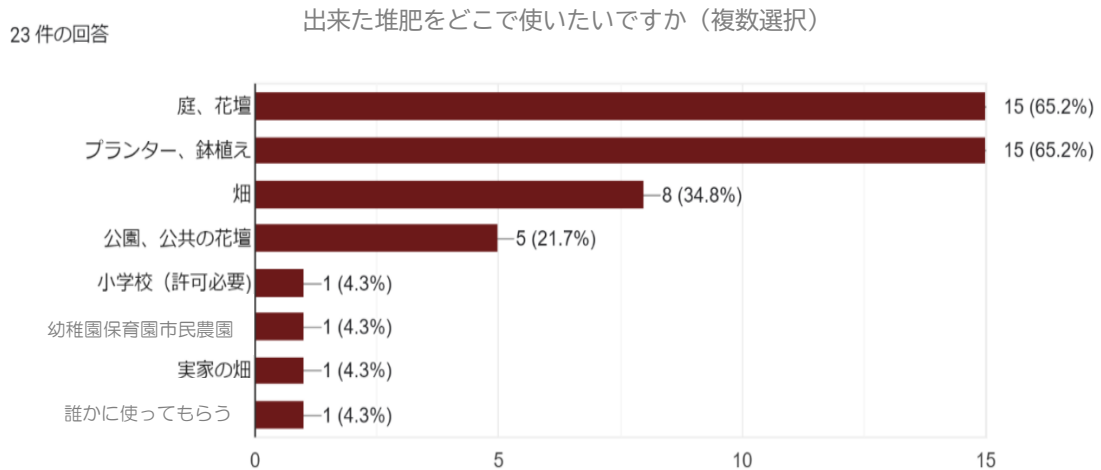
### 3 取組の成果

1回目のワークショップは当初25名の予定でしたが、希望者が多かったため定員を増やし30名にしました。希望者が多かったことから、竹チップ段ボールコンポストに興味を持っている人が多いことがわかりました。1回目の参加者にアンケートを取ったところ、22人から回答があり、48%は以前に何等かのコンポストを使ったことがあるとのことでした。また、2回目のワークショップの事前アンケートには24人から回答があり、「竹チップ段ボールコンポストは使いやすかったですか？」の設問に対し、「使いやすい」との回答は82.6%、「コンポストを使って生ごみは減りましたか？」の設問に対し、「生ごみは減る」との回答は69.5%でした。ほとんどの参加者はシン・コミュニティ農園に興味があり（興味があると回答した人は91%）、中にはシン・コミュニティ農園が実現するなら関わっていききたいという意見もありました。

【その他の意見】（2回目のワークショップの事前アンケートより）

- ・ピートモスと違って竹チップは国内で資材を調達できる。
- ・生ごみを捨てなくて済む。生ごみを出す量が減った。
- ・揚げ物をして残った油をコンポストに入れられるので処理が楽になった。
- ・地域の未利用資源を活用できる。
- ・環境について考えるきっかけになった。
- ・風邪をひいた子供の食べ残しを捨てる時罪悪感が減ったなど。

また、出来た堆肥を使う先があるかどうかは、コンポストを利用する上で大事なことであるため、その点についてもアンケートを取ったところ、以下のような回答があり、庭やプランターなど自身の所有物に使用するだけでなく、公園等の公共施設にも使用したいと考える方もいることがわかりました。



そして、竹チップ段ボールコンポストをどのように活用することが考えられるかグループディスカッションをしてもらったところ以下のような意見が出ました。

<ディスカッションで出た意見>

- ・コンポストで出来た堆肥を回収してもらえると良い。
- ・回収拠点があると良い（管理する人が必要）。
- ・コンポストの質は農家の人がチェックしてくれると安心。
- ・学校や大学の畑で使用する。市民農園、公園や公共施設の花壇、農業公園で使う。
- ・ガーデニングボランティアが活躍する花壇で使用する。
- ・三鷹市で集めて堆肥化して販売する。
- ・チャリティーバザーで売る
- ・避難所にコンポストを作る。
- ・竹パウダーを作る。
- ・天文台の竹林。

#### 4 次年度以降の取組について

ワークショップには「特定非営利活動法人 花と緑のまち三鷹創造協会」で活動している方も参加しており、コンポスト堆肥をガーデニングボランティアが活動する花壇で使ってもらえるように、参加者から働きかけてもらえれば、竹チップ段ボールコンポストの利用者がさらに増えるように思います。また Public Soil Club はピートモスから竹チップを基材にすることを検討しています。

竹チップ段ボールコンポストの基材に使われている竹は、確かに ICU (国際基督教大学) や国立天文台にあります。この2か所は市の施設ではないため市民が活用することは難しいです。そのため、まずは多摩地域の竹チップを調達し、竹チップ段ボールコンポストを利用したい人が購入できる方法を探りたいです。

多摩地域の自治体では竹チップ段ボールコンポストを市のホームページに載せて推奨しているところもあり、町田市はホームページに掲載し、一般財団法人まちだエコライフ推進公社でコンポストセットを販売しています。

【町田市のホームページ】

<https://www.city.machida.tokyo.jp/kurashi/kankyo/gomi/event/namagomi/danboru.html>

多摩市でもホームページで多摩市オリジナル、段ボールコンポストのダンボちゃんを紹介し、基材に八王子の牧場の牛糞堆肥、伊那市のもみ殻燻炭、町田の竹チップ、多摩市エコプラザ多摩の土壌改良剤を使用したオリジナルコンポストを多摩市内の NPO 法人で販売しています。

【多摩市のホームページ】

<https://www.city.tama.lg.jp/kurashi/gomi/namagomi/1002150.html>

日野市は竹チップとそば殻燻炭を利用した段ボールコンポストを市のホームページで紹介し、市に申し込みをして福祉法人がコンポストを届ける仕組みになっています。

【日野市のホームページ】

[https://www.city.hino.lg.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/002/932/20170329-155738.pdf](https://www.city.hino.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/002/932/20170329-155738.pdf)

このように近隣の自治体で段ボールコンポストを推奨していることから、三鷹市でも段ボールコンポストを何等かの形で販売できるとよいと思います。

今回の取り組みの結果、市内の社会福祉法人の畑で竹チップ段ボールコンポストの持ち込みを受け入れても良いと言ってもらえたのは大きな成果です。出来たコンポストを自宅で使いきれないという人もいたので、堆肥の受け入れは大変ありがたく、今後も繋がりを大事にしていきたいです。また、同法人の畑は、マチコエ農業グループが提言した「シン・コミュニティ農園」に近い形なので、今後このような畑が三鷹市内で増えるように市が関わって行って欲しいと思います。

今回の取り組みを通じて、人の繋がりが生まれたので、これからもそのご縁を大事にしていきたいです。



市内の社会福祉法人の畑

<取組の報告を受けた選考委員からの主な意見（助言等）>

- ・ 生ごみを減らそうという実験を行ったのは良いと思う。継続的に堆肥化を進めるために地道な作業が必要であるため継続することが難しいケースなどが課題として挙げられるが、そのような課題と向き合い、今後も継続性を追求していけるとよい。